

御国が来ますように！あなたはどちらの国に生きるのか？

「失われた者Ⅲ 偽善と真実の愛 本物」 Iヨハネ13:26~36

■【「〇〇風」になっていませんか？】

世の中には「〇〇風」というものがたくさんありますね。一見、仕事をしているように見えて実はそんなにしていなかったり…料理にも「中華風」「日本風」など「〇〇風」と名付けられるものはたくさんあります。しかし、みなさん自身は「〇〇風」で良いのでしょうか？今日はそんなことを考えていきたいのです。「風」では偽物なので意味がなく、本物でなければ本物の実がなりません。私たちは失われた者であることを知る必要があります。本当の自分を取り戻さなければならないのです。ローマ書に書かれているように、私たちは本当はやりたくない事をおこなってしまいます。私たちは失われたものがあるためその様になってしまってしまうのです。

■ある先生達の実験

子ども達 157 人を集めて、「朝、寝ている子どもにどの様な音を聴かせると起きるのか？」という面白い実験をしました。9割以上の子どもがお母さんの声で一番起きたという結果が出ました。それは、感情的であろうとそうでなかろうと同じ結果が出るという事です。お母さんの声が一番最初に聞いた声で、守ってくれる声だと認識しています。危険を促す事も、安全を促す事も、愛していることを伝えることも母であるのです。しかし、その愛の関係が壊れている時、母と子の関係はうまくいかなくなるのです。

人は自分の願いが叫べられないと失望します。私たちが人生で間違った決断をしてしまう時、愛の関係が壊れている時と言っても過言ではありません。真実の愛とは一体何なのでしょう？聖書の中には、羊は羊飼いの声をよく知っていると書かれていて、しっかりと聞き分けています。嘘の声が聞こえてきて間違える事はありません。私たちは本物の声を知っています。しかし、頭で分かっているだけなのです。

私たちに失われたものがある時、本物の声を知っていても聴き分けることができなくなるのです。人は、冷静になれよと言ってくれる人がいれば焦ることもなく迷うこともありません。

しかし、私たちは本当の私ではない生き方、本来の役割ではない生き方をして、人を傷つけてしまっている事がたくさんあるわけです。

■イスカリオテのユダ

今回の聖書箇所は最後の晩餐のシーンです。イスカリオテのユダも忠実に仕えてきましたが、裏切ろうとしている所です。イエスは全てわかっていて「その裏切る者は、私がパン切れを浸して渡す者だ」と言いました。イエスがユダにパン切れを渡すと、ユダにサタンが入ります。

そして、イエスは「あなたがしようとしている事をしなさい」とユダに告げます。するとユダは、イエス・キリストを憎んで殺そうとしているパリサイ人のところ売りに行きます。イエス様にとって一番近い人が裏切ったわけです。

イエス様はユダを愛し、客観的に見たらわかる間違ったところを戻したくて一生懸命関わっていました。ユダは納得いかない事が多くあり、戻りたくても戻れなくなる中で、イエス様のことがわからなくなって裏切ってしまったのです。

弟子達は、ユダがその場から出て行った理由がわかりませんでした。その時イエス様は言われました。「今こそ人の子は栄光を受けました。」裏切られたことに栄光があると語られたのです。これは一体どういうことを意味しているのでしょうか。それは、イエス様は相手を愛しようとしていないという事です。裏切られた瞬間、やるべきことがスタートしたと言われているのです。

【自分が変わる決断、それが十字架】

『神が、人の子によって栄光をお受けになったのであれば、神も、ご自身によって人の子に栄光をお与えになります。しかも、ただちに御与えになります。』(ヨハネ 13:32)

私たちが神様から与えられた本来の役割に立ち生きるなら、神様の光を受け、私たちを通して神様の光を放つことができます。そしてその栄光を神様にお返しすることができます。

しかし、イエス様はこうも言われています。『わたしが行く所へは、あなたがたは来ることができない。』とわたしがユダヤ人たちに言ったように、今はあなたがたに言うのです。(ヨハネ 13:33)

私たちの人生の中に理不尽が起こった時、裏切られた人を自分から愛そうとする…。自分には受け入れがたいような事が起こった時に、「私に主の栄光が来ました」とは到底言えない私たちがいるのです。しかし、イエス様は私たちの為に、私たちが行くことの出来ないところに行かれる。そうです、十字架に向かわれていくのです。

イエス様は人を変えるのではなく、自らを変える決断をしたのでした。それが十字架です。ユダは、イエス様を裏切り、イエス様が十字架にかかった後、「自分はなんてことをしてしまったんだ」と思い自らの命を断ってしまいます。人々はユダを罰したのでしょうか？いえ、彼は変わることを拒んだだけなのです。これは計画だった

わけですが、もしユダが十字架にかかるイエス様を見て「ごめんなさい」といえば、すぐに赦されたのではないのでしょうか。

ユダの生き方と対照的に出てくるペテロ。彼も同じようにイエス様を裏切りました。しかし彼は変わる決断をしたのです。最初の人アダムは、神様を裏切り冒瀆しました。しかし、「ごめんなさい」と言って変わる事ができなかった為、彼は自らで間違った道を生きていくしかなくなってしまいました。聖書は私達に変われと言っているのではなく、変わる道を用意したから、どちらの道を進むかを選びなさいと言っているだけなのです。その上で、新しい戒めが与えられるのです。

【互いに愛する】

『あなたがたに新しい戒めを与えましょう。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。』(ヨハネ 13:34)

私たちは決断しても、また同じように理不尽なことが起こると同じように腹を立たせ良くないことをしてしまうのです。何が変わるのでしょうか？それは「自分が良くない」と気づき「ごめんなさい」ができるようになることです。

『もし互いの間に愛があるなら、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。』(ヨハネ 13:35) 私たちは、愛し合う事を勉強する弟子です。

最後の晩餐でイエス様は弟子たちに言われました。「互いに愛し合いなさい。」

私たちに理不尽なことが起こった時、思い出して欲しいのです。「どこに神はいるのか？」そう思った時に目を閉じて探して欲しいのです。「探すか」「探さないのか」…。

私たちは肝心な時にイエス様を探さず、自分の人生を壊す決断をしてしまうのです。人はそれぞれ違います。だから、自分の価値観で物事を判断するのではなくて黄金律を探さなければ本当の解決は無いです。それは私たちの罪の為に十字架に架かられたイエスキリストの所にしかないので。

■ヴィクトール・エミール・フランク

彼は、ナチスドイツの強制収容所に収監されて生還した一人です。収容所の職員達は文字通り彼から全てのものを取り上げました。妻も子どもも衣服も、全ての所有物から結婚指輪に至るまで、そして自由も取り上げました。しかし、「ただ一つ私から奪う事ができなかったものがある」と彼は言ったのです。

それは「態度」です。彼は、収容所での態度が良かったため、希望も得られたし、失ったものを取り戻す事ができました。私たちクリスチャンが奪われているのは、真実なる態度です。その態度の積み重ねで、私たちは人を裏切り続けるの、取り返しのつかないところまで行ってしまいました。だから、聖書は愛し合いなさいと言っています。それは、正しい態度で相手に接する事です。

愛というのは態度です。イエス様は、ユダが裏切った後戻る事ができない事を知っていたなお、自ら十字架にかかり、裏切った者のためにこれからスタートしたと言う愛の態度を選びました。

私たちが選ばなければ変われません。正しい態度を選ぶ事ができれば、身を結ぶ事ができます。

さいごに

「愛」とは「態度」です。イエス様は知っていました。ユダは自分を裏切り戻ってこない事を。しかし、愛し赦しました。この出来事から始まると言われ、十字架に向かわれたのです。私たちが変わります。私たちが選ばないと変わらないのです。私たちが選ぶと変わります。クリスチャンは失敗者の集まりです。本当の弱さとは何でしょうか？それは自分の弱さを認められない事です。偽り、ごまかすことです。私たちが確かに弱い。しかしその弱さを認め変わろうとすることができると。

もし、私の人生が今日で終わるとしたら、世界が終わるとしたら、あなたはどうしますか？壊れた関係をそのままにしますか？「ごめんなさい」と伝えることをしないで終わりますか？「愛している」と伝えなくて憎しみのまま終わりますか？神様の大きい愛は私たち一人ひとりに向かっています。失われたものを取り戻すことができます。愛されていることを受け取ることができる場所です。

「〇〇風」で生きることを止めましょう。繰り返して偽り続けてはいけません。

失われたなら取り返せばいいのです。今日あなたは神様の元に戻ることができます。愛し合う時に私たちは神の子どもであることが分かるのです。そして本当に取るべき態度をとることができるのです。

(要約者:辻 総一郎)

(2023年8月27日)